

阿賀野川流域をテーマとした写真集を2冊紹介

// 昨年2023年に出版されたばかり! //



▲家族で炭を焼く



あがのがわの息吹

HAIKU&PHOTOGRAPH

山口冬人俳句&写真集
(株式会社博進堂)

2,800円(税込)

阿賀町を中心に、大河・阿賀野川とその支流が生み出す四季折々の自然や風土を、そこに関わる人々の営みも含めて繊細に切り取った、100点以上の写真を収録。山口冬人氏が過去に詠んだ30句の俳句も添えられている。

お問合せ先 写真工房冬人 ☎0254-92-4345



山口冬人 (やまぐち ふゆと) さん

本名、村山勝実。1953年、新潟県東蒲原郡阿賀町(旧津川町)生まれ。俳句は高校時代から始め、20歳から写真関連の仕事に就く。2000年頃に新潟市から津川に戻り、写真工房冬人を営むかたわら、阿賀町を中心に阿賀野川流域の自然や風土を撮影。09年に最初の写真集「奥阿賀の魅力 水と緑と雲海の阿賀路」を出版。



▲ヘリから阿賀野川を空撮

AGANO RIVER

—阿賀野川と生きていく—

小原王明写真集
(新潟日報メディアネット)

3,500円(税込)



阿賀野川の美しい情景や、そこに生息する鳥たちの愛らしい姿、我々が守るべき自然の姿、ヘリでの上空からの空撮。現代の人間社会へのメッセージを含めた、80点以上の写真作品を収めた、フォトアーティスト・小原王明氏による写真集。

お問合せ先 新潟水俣病阿賀野患者会 ☎025-244-0178

小原王明 (こはら きみはる) さん

1948年、東京生まれ。中学2年から機関車を撮り始める。33歳の時に新潟へ転勤、55歳で一線を離れ、自然系カメラマンに。阿賀野川の白鳥を撮影するため、大阿賀橋に300日間通い続ける。2014年に新潟水俣病阿賀野患者会と出会い、18年に最初の写真集「AGA MINAMATA - 水俣病は終わらない。」を出版。



「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え〜とこだ! 憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第38号はいかがでしたでしょうか？

1965(昭和40)年に発生した新潟水俣病の公式確認から今年で59年目、来年には60年を迎えます。ここ数年も高橋なんぐさんを始め、新たに様々な方々や団体から関わっていただき、新しい取組や試みが紡がれています。今後も様々な情報を発信して参りますので、ご都合がよろしい方は、ぜひイベント等にお気軽にご参加ください!



今号表紙の写真「寶来寺の村中大般若」

阿賀町豊実の馬取集落にある寶来寺に伝わる「村中大般若」は、江戸時代から約150年続く伝統行事で、毎年1月28日に行われます。大般若経の入った木箱を檀家さんが担ぎ、住職と共に集落を一軒一軒歩いて回り一年の無事を祈ります。

阿賀野川え〜とこだより 第38号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2024年3月1日
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学会(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川え〜とこだ!流域通信
<https://aganogawa.info/>

// え〜とこだよりのバックナンバーも見れます! //

